

業務実施委員会報告

技術部業務実施委員会

委員長 奥林 豊保

業務実施委員会は総括技術長以下 15 名の技術職員で構成され、8 月と 2 月を除き年間 10 回開催された。技術部組織としての活動も 2 年目となり概ね順調に推移したこともあり、体制作りによくの時間を割いた前年度に比べると WG 活動状況等についての報告事項が多く、若干の余裕も生まれたように思われる。

この委員会は技術職員の様々な活動や問題について意見を述べ、それらについて議論し、その結果を実行することである。当然のことながら、技術部の意見がすべて学部内や事務方に対して反映されることはなく、どのように着地点を探るか難しい問題でもあります。各委員は技術部を取り巻く様々な問題やそれぞれの系や班の考え方を会議において発言する役目も担っており、常日頃から各組織内の意思の疎通を図っておくことは必要なことであると考えます。

このような状況の中にあつて、前年に比べ前進した案件もいくつかあります。まず前年度からの課題であった予算も計上され、さらに職員評価および人事考課(案)についても技術部内で評価する事となり、組織化のひとつの成果であると言えるでしょう。しかし、技術職員の格付け等解決すべき問題も未だ取り残されたままであり、技術部も 3 年目を迎える次年度には何らかの解決が図れるよう努力して参りたいと思っています。

次に、技術部の「大分大学開放イベント 2008」、「2008 子どもイベント」、「パソコンの組立て教室」、「おもしろ科学実験教室」等独自の活動が徐々に軌道に乗り始めたことです。

しかし、各々の活動に関する様々な問題も浮き彫りになりました。例えば「おもしろ科学実験教室」では、実験の安全性については言うに及ばず、もし、万が一事故を起こした場合の保障、また、個人情報保護の観点から実験時の写真撮影については、撮影位置などに配慮して個人の特を避けることやマスコミ報道に対する対策等についても小学校側と事前の打ち合わせを行い万全の準備をとる必要など。さらに、現在のところ技術部の拠点となるスペースが確保されてないために、実験に使用する器具や消耗品の保管場所もない状態であり、保管については関係する技術職員の講座等の好意に頼っているのが実情であることなど。その他「おもしろ科学実験教室」のように頻度の高い活動については、それに関わる技術職員個々人の負荷についても何らかの対策を講じる必要や学内における「大分大学開放イベント 2008」、「2008 子どもイベント」、「パソコンの組立て教室」等活動においても、実施に必要な時間の数倍の労力がそれらの計画や準備に必要であることなどが明らかとなりました。

このような技術部の活動については、組織としての活動であり、本来全員で取り組むことが基本であると思いますが、様々な事情により、特定の職員に頼っているところが多々あります。このような状況が長く続くことによる不公平感をどの様にして払拭するかも問われています。

これは技術部スタート時からの課題でもあります。一部の職員には学科や講座など旧来の組織に対する帰属意識が依然として残っていると感ずることも事実であり、本技術部は技術職員の組織であるという共通認識をどのようにして定着させるか、今後解決すべき問題の一つであると考えています。